

## 命の週間における各学校の取組について

学校名【清瀬市立 清明小学校 】（記入者：梶原 弥咲子 ）

主な取組	具体的な内容	・学年、教科等との関連、外部との連携等 ・成果、課題、今後の取組等
いつでも誰でも相談週間	相談BOXを職員室前に設置して、児童自身が「だれに相談したいか」「どんな内容か」を明記して、普段話す機会が少ない大人にも相談できる環境をつくる。	児童が自分の悩みを相談できる機会となった。6名の児童が、相談したい教職員へ相談していた。また、教員自身が児童の様子を把握するためのアンテナを高くする意識付けとなった。
生活指導夕会	毎週木曜日、午後4時25分から各学年・学級において気になる児童についての情報共有を行い、問題行動及びいじめ・不登校等の未然防止を図る。	職員会議の時間にいじめ総合対策を活用しいじめの定義について再確認した。児童や保護者の中にはいじめの定義が定着していない実態があるため、指導や事実報告等において毅然とした態度で伝えていくよう指導した。
生活指導主任から児童への講話	2学期始業式の後、生活指導主任から児童に向けて「命の週間」に係る講話をし、意識付けをする。	「命の週間」の意義や目的を知らせるとともに、活動の内容について詳しい説明を行い、意義のある活動にすることができた。
校長から朝会での講話や学校だよりでの周知	「命の週間」における取組の趣旨や命の大切さに係る話を児童に伝える。	クロムブックを使用し、パワーポイントで「いのちのおはなし」という絵本を活用し、命の大切さについて児童に伝えた。
エールウィークの実施	教職員が子供一人一人のよさや努力、成長を見付け共有する。見つけたよさ等を子供に直接伝えるとともに学校だより等で保護者や地域に発信する。	自分の頑張りや夢を書くことにより、自分を見つめなおす良い機会となった。今後、掲示の予定。
教職員に心の健康について話す	教職員の心のケアチェックシートを用いて教員自身の心の健康について振り返らせ、不調に気付いたら休息したり相談したりすることの重要性を伝える。	教職員の心のチェックシートを通して、客観的に自分を振り返るよい機会となった。
SOSの出し方に関する教育の推進	SOSの出し方に関する指導を全学年で実施	5、6年生はDVDを活用し、他学年は校長講話の後等に、SOSの出し方に関する指導を行った。辛いことや悩みがあれば、周りの人や教師はもちろん、SCや様々な相談機関にも相談することができるということを児童に伝えることができた。